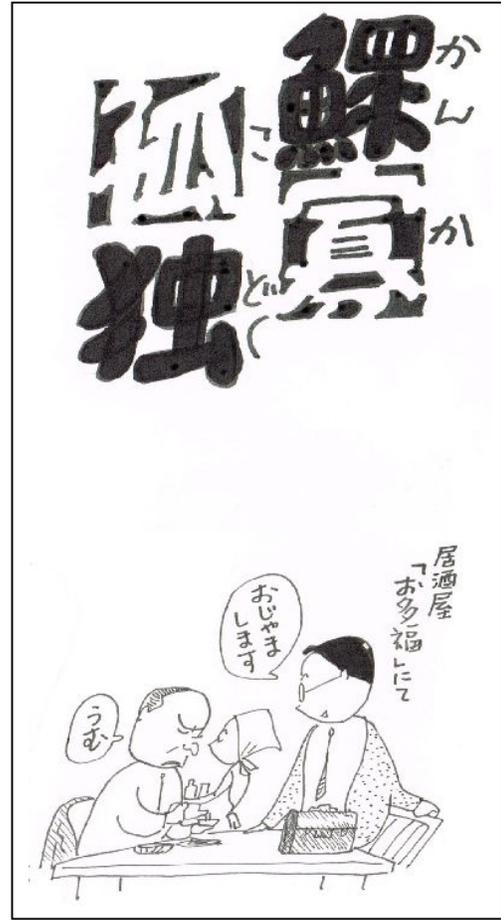


先週の回答



ふらっと居酒屋『お多福』に立ち寄ってみた。いつものように店は混んでいる。「ご相席おねがいします」と店のコに言われて、隅の小さなテーブルに案内された。やや年配の男が一人で盃をかたむけていた。「おじやまします」。男は、うむと仕方なさそうに答えた。

隅の席で一人で壁に向かって飲んでいる初老の背中を見ながら、相手の男が「鰥寡孤独(かかんかこどく)には鰥寡孤独の楽しさがある」とぼそりと言った。

「何ですか? かんかこどくって?」

「『鰥』は妻のない男。『寡』は夫のない女。『孤』はみなしご(孤児)。『独』は子のない老人のことだ。ひっくりかえって一

人ぼっちの人のことだ」

「そう言えば、今や全世帯の三十五%は一人暮らし世帯なんですってねえ」

「それがどうした」と高飛車な答え。

「一人暮らしの人がそんなに多いというのは、問題じゃないですか」

「なぜ?」

「だって、家族の無い人がそんなにたくさんいるんですから」

「家族が無い者がたくさんいてはいけないか」

「いけなくはありませんが、淋しいじゃないですか」

「家族がいるから淋しくないとは限らんだろう」

「帰って来ても話し相手はTVだけ」

「のほは」

「人間は生まれてくるときも、死んでいくときも一人なんだ」

「そりや、そうですか」

「『孤独な人間は、この世で最も強い』とイプセンは言ってる。『人は誰も、おのれひとりの生涯をひとり生き、おのれひとりの死をおのれひとりで死ぬものである』とヤコブセンも言っておる。ショーペンハウエルにいたっては『孤独は、すべて優れた人物の運命である』とまで言っておる」

「もしかして、あなたは一人暮らしなんですか?」

「いかんか」

「いえ、別に。ただ一人暮らしは淋しいと思っちゃいましたから」

「傍から見るとそう見えるかも知れんが、一人暮らしの良さは、自分の好きな時に寝て、好きなものを自分でつくって食べて、気が向けばぶらっと旅に出て、誰からも束縛されん」

「はあ・・・」

「さつきから言ってるだろう、一人暮らしは淋しいとは限らんけど、誰かい人いないかね、一緒に暮らししてくれる人が」

「はあー」

今週の問題



□の中に漢字を埋めて
四字熟語を完成させてください。